

クイック・スタートアップ・ガイド

本質安全防爆形
Bluetooth無線
バーコードスキャナー
ISCANX4Bxxxxシリーズ



国内防爆検定合格品



Extronics Limited (英国)

REV11

目次

1	クイックスタートガイド	3
2	Bluetooth 本安防爆バーコードスキャナーとベース・ステーションの各部説明	3
3	使用前の準備	4
4	通信接続モード	5
4.1	PAIR モードによるブルートゥース通信	7
4.2	PICO ピコモードによるブルートゥース通信	8
4.3	HID モードによる通信手順 (PC との PAIR モード)	9
4.4	SPP モードによるブルートゥース通信手順	11
5	Out-of-range Scanning 通信範囲外のスキャンング	13
6	Presentation Scanning プレゼンテーションモード	13
7	Sleep Mode & Power Off (スリープモードと電力 OFF)	13
7.1	Radio-off Time-out, Sleep Time-out & Power Off Time out について	14
7.2	Power-off Time-out コントロール	14
8	Batch Scanning (Inventory) バッチスキャンング (在庫) モード	15
9	Link Mode Quick Set (リンクモードクイック・セット)	16
10	Host Interface Quick Set (ホストインターフェース・クイック・セット)	16
11	Keyboard Layout Quick Set(キーボード配列クイック・セット)	16
12	System Commands (システム命令)	17
13	Operation Mode Quick Set (操作モードクイック・セット)	17
14	Option Codes (オプションコード)	17
15	表示について (バーコードスキャナーのランプ表示)	18
16	スキャナのバッテリーレベルの確認と保管について	20
17	バーコードを使用したコンフィギュレーション (設定)	21
18	プログラミング手順	21
追補 1	Bluetooth 本安防爆バーコードスキャナーの危険箇所からの RS232 通信設定	25
追補 2	CAB1 ケーブルを使用した非危険場所における RS232 通信テスト	26
追補 3	ISCANX4Bxxxx による漢字 QR コードの読み取りテスト手順	27
追補 4	RS232 シリアル、データフレーム等々の設定	29

(記) HID: Human Interface Device の略

1. クイックスタートガイドについて

この説明書は Extronics Limited (英国) 社の Bluetooth 無線本安防爆バーコードスキャナー、iSCANX4Bxxxx の使用方法について簡単に纏めたものです。バーコードの種類など詳細説明は別途提供の詳細な取扱説明書を参照ください。このガイドには Bluetooth 無線本安防爆バーコードスキャナー、iSCANX4Bxxxx の使用に必要な最小限のコンフィギュレーション (設定) のコードを記載しています。工場出し時のデフォルト設定は◆印で示しています。バーコードスキャナーのコンフィギュレーション (設定) には1つまたは一連のコードのスキャンが必要です。場合によってはこのクイックスタートガイドのページ17のオプションコード (数字) のスキャンが必要です。

2. Bluetooth 無線本安防爆バーコードスキャナーとベース・ステーションの各部説明

Bluetooth無線本安防爆バーコードスキャナー	
<p>iSCANX4Bxxxxシリーズ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① リンク表示 ② 状態表示 ③ ビープ音 ④ スキャン窓 ⑤ トリガー ⑥ 電池収納容器 ⑦ 裏キャップ ⑨ 落下防止紐穴 ⑩ 締付ねじ

ベース・ステーション	
<p>通信・充電兼用</p>	<p>充電専用</p>
<ul style="list-style-type: none"> ① 電源表示 Power ② 状態表示 Status ③ ページング/リセットボタン ④ USB Bus 電源スイッチ (非防爆のみ) 	<ul style="list-style-type: none"> ⑤ ホストインターフェース(RJ45) ⑥ DC 電源ジャック(非防爆のみ) ⑦ 未使用

3. 使用前の準備

スキャナへの電池の取り付け



① スキャナー底部の充電電池収納容器の蓋を緩めます。そして充電電池の接点部が充電電池収納容器内の接点に向くように保持します。

② 次に充電電池収納容器にクリック音がするまでスライドして押し込みます。充電電池の電圧が適正範囲内、且つ正しく収納容器内に取り付けられれば、4つのピープ音がします。

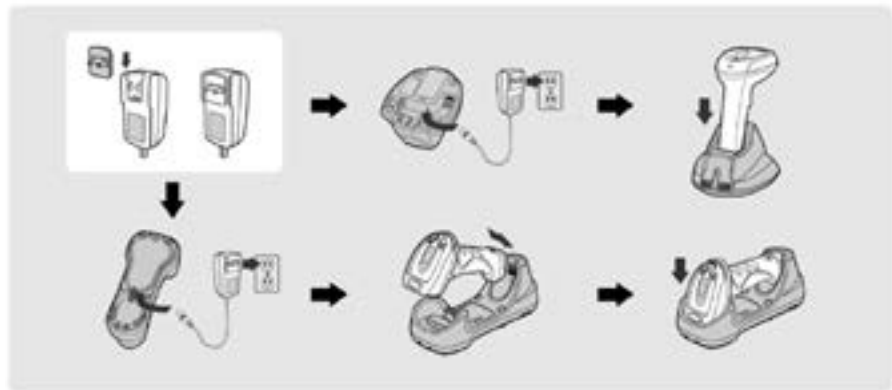
③ 充電電池収納容器の底蓋のネジをしっかりと締めて固定します。

(注記) 底蓋をしっかりと、締めないと電池ケース内部のピンとの接触が悪くなり、充電できなくなりますので、ご注意ください。

(記) 電池には取り出し用のシールがついています。

スキャナの電池の充電方法：

① 提供された電源アダプターキットから、その国のコンセントに適合したプラグを選び電源アダプターにしっかりと取り付けます。そして壁コンセントに挿入ください。



② 次に電源アダプターのプラグをベース・ステーションのDC電源ジャックに差し込みます。ベース・ステーション（Bluetooth通信内蔵）

使用の場合、電源ONを知らせるピープ音が鳴り、電源表示の青色が点滅します。ベース・ステーション（充電専用）の場合は青色電源ランプが点灯します。

③ Bluetooth無線本安防爆バーコードスキャナーをベース・ステーションに置きます。バーコードスキャナーの電池が完全に充電されていない場合、赤色の状態表示ランプが点灯します。完全に充電されると状態表示ランプは一旦緑色になりますが、暫くしますと赤色になります。この場合、充電レベルの確認のバーコードをスキャンして充電レベルを確認ください。詳細は[ページ 18](#)を参照ください。

(記) 新しい充電電池の場合、使用する前に8時間充電してください。

① **USB 3.0を使用する場合、USBバス電源が提供されるため、電池の充電と通常の通信の両方が提供されます。外部電源を必要としません。**

② この特長を使用する場合、USBバス電源スイッチをONにしてください。そしてベース・ステーションとホスト機器間をUSBケーブルで接続します。

USB2.0を使用する場合は別電源が必要です。

(記) ベース・ステーションのRJジャック入力にケーブルを押し込んで接続します。



正しい接続： 最後まで押し込む
未接続： 押し込み不足



4. Radio Link モード（通信接続モード）について

Bluetooth 無線本安防爆バーコードスキャナーはホスト機器との通信に幾つかの接続モードを提供しています。Bluetooth 無線本安防爆バーコードスキャナーはベース・ステーション（Bluetooth 無線本安防爆バーコードスキャナーはベース・ステーション（Bluetooth 無線本安防爆バーコードスキャナーはベース・ステーション）との間で「PAIR（peer-to-peer 一対一接続）」モード、または「PICO（複数接続）」モードで通信をできるため、貴方のホスト機器がBluetooth を搭載していない場合でもベース・ステーションを経由して有線で繋がります。さらに、Bluetooth を搭載のホスト機器とは SPP モードまたは HID モードで通信します。

(記) Bluetooth には、プロファイルという、どのような機器と通信するかを定めた複数の通信手順があります。主に使用されているプロファイルは「HID (Human Interface Device)」か「SPP (Serial Port Profile)」です。Bluetooth HID で通信するバーコードリーダーは、パソコンからのキーボード入力のように読み取りデータを出力します。専用アプリケーションが不要で、使用者は特別な技術がなくても使用できます。Bluetooth SPP で通信する時は、パソコンに対してシリアル通信のように読み取りデータを送信します。専用アプリケーションが必要で、技術者によるシステム開発が必要な場合があります。また、マスター（親機）、スレーブ（子機）という考え方があり、通信開始時は毎回マスター側から操作します。（スレーブ側からは接続開始できません。）

PAIR モード（一台のバーコードスキャナーと一台のベース・ステーション接続モード）：

現在使用されているシステムにBluetooth が内蔵されていない場合、簡単なプラグアンドプレイができる PAIR モードを推奨します。このモードはベース・ステーションは一台のバーコードスキャナーだけと通信できます。ベース・ステーションはBluetooth 無線本安防爆バーコードスキャナーだけでなく、ホスト機器と有線インターフェースを提供しています。

PICO モード（一台のベース・ステーションは最大 5 台のバーコードスキャナーと通信可能）：

複数の接続を希望される場合、一台のベース・ステーションに最大 5 台のバーコードスキャナーが接続できます。全てのバーコードスキャナーとベース・ステーションの通信を遮断するには、ベース・ステーション上の「PAGING /RESET」ボタンを 5 秒以上押してください。一部のバーコードスキャナーと通信を遮断するには、そのバーコードスキャナーを使用して [Uninstall] 命令のバーコードをスキャンします。また、PICO モードでは各スキャナーの ID 番号又は MAC アドレス番号が読み取り値の前に付加され、スキャナーが識別されます。

HID モード（ベース・ステーションを使用しないでBluetooth を搭載したホスト機器（コンピュータ (PC)）と直接通信）：

HID モードを選択するとバーコードスキャナーはBluetooth キーボードとして動作します。このモードを選択するとホスト機器（コンピュータなど）のBluetooth 無線本安防爆バーコードスキャナーによる検索機能により検出されます。時には、Bluetooth 無線本安防爆バーコードスキャナー接続確立のためのパスキー（PIN コード）が必要な場合があります。

SPP Master/Slave モード（ベース・ステーションを使用しないでBluetooth を搭載した機器と直接シリアル通信）：

標準 SPP サービスにより、バーコードスキャナーはBluetooth シリアル機器として動作します。SPP Master モードでは、バーコードスキャナーからリモートの Slave 機器に通信が開始されます。SPP Slave モードでは、リモートのホスト機器からの接続要求によりバーコードスキャナーが検出されます。

(記) 設定手順はページ 10 以降を参照ください。



4.1 PAIR モードによるBluetooth通信手順：（通信対応のベース・ステーション（クレードル）とのペアリング）

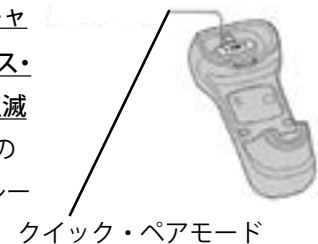
- ① 電池が充分充電されていることを確認。
- ② インターフェースケーブルを選択し、ベース・ステーション（クレードル）をホスト機器に接続します。防爆ベース・ステーションと防爆電源使用の際は相互にケーブルで接続、防爆電源と安全場所のホスト機器間もさらに通信ケーブルで接続します。別途、Bluetooth 無線本安防爆バーコードスキャナーと防爆電源の取扱説明書を参照ください。
- ③ ホスト機器の電源を ON にします。
- ④ Bluetooth 無線本安防爆バーコードスキャナーとベース・ステーションがリンク（通信接続）されていれば、バーコードスキャナーのランプが 2.5 秒ごとに青色点滅し、ベース・ステーションの電源表示が青色に点灯します。バーコードスキャナーとベース・ステーションの pair が確立されていない時は赤と緑色の点滅が繰り返されます。相互の通信を確立するには手順⑤に進んでください。



- ⑤ はじめて使用の際は、uninstall(アンインストール) のコードをスキャンして下さい。次に ISCANX4B-1-Q (又は ISCANX4B-1-P) をベース・ステーション（クレードル）とペアリングするには、uninstall(アンインストール) コードをスキャンした後、**スマート・クレードル、iSCANX4B-1-**

EXBS 又は iSCANX4B-1-BS の上部に貼付のクイックペアリング・コード

を ISCANX4B-1-Q (又は ISCANX4B-1-P) でスキャンします。するとスキャンからペアリング音とクリック音が鳴ります。直ちに、スマートクレードル（ベース・ステーション、即ち iSCANX4B-1-EXBS 又は iSCANX4B-1-BS）の STATUS ランプ点滅が消え、POWER ランプが青色に点灯します。これでペアリング完了です。旧型式のクレードル（ベース・ステーション）のようにスキャナをペアリング後、直ちにクレードル（ベース・ステーション）に置く必要はありません。



（注記） ペアリングを最初に開始する場合又は上手くいかない場合、スマート・クレードルの Status ランプが点滅していることを確認してください。点滅してなければ、ベース・ステーション上のリセットボタンを 5 秒以上押しリセットし、Status ランプの点滅をさせてから再度上記手順を行ってください。



スキャナとクレードル（ベース・ステーション）間のペアリング間はデフォルト設定（"Factory Default"）ではロックされますので、異なる別の ISCANX4B-1-Q (又は ISCANX4B-1-P) とペアリングが必要な場合、ロックを解除するために、上の表示の uninstall(アンインストール) のコードを読み取ってから、別のスキャナで再度クイックペアリング・コードをスキャンし、ペアリングを確立します。又は、右の "Override the locked scanner" のコードを新たなスキャナでスキャンしますと以前のスキャナとのペアリングが解除され、新たなスキャナとペアリングが確立されます。

- ⑥ 該当するホスト機器インターフェースのクイックセット命令 (command) をスキャンしてインストールを完了します。

（記） ベース・ステーションのデフォルト設定のホスト機器インターフェースは "USB HID" です。

インターフェースを USB COM に設定を希望する場合、バーコードスキャナーの使用前にホスト機器に USB パーチャル COM ソフトウェア・ドライバをインストールしなければなりません。* これは www.sick.com から提供されています。全てのホスト機器インターフェースクイックセット命令 (command) は [このガイドのページ 16](#) を参照ください。



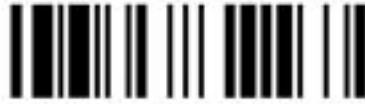
Override the locked scanner

ロックされたスキャナを上書き



◆ Unlocked Pair Mode

ロック無しのペアリングモード



Paging

ペイジング (呼び出し)



Locked Pair Mode

ペアリングモードをロック

リセットボタン

● ペイジング Function (呼び出し機能)

* ペアリングしているスキャナを検出

ペイジング (呼び出し) 機能を利用してペアリングしているベース・ステーション (クレードル) を特定するには、使用されている ISCANX4B-1-Q/P スキャナで上のペイジング (Paging) コードをスキャンします。そうすると対応するベース・ステーション (クレードル) からビープ音がでて、その場所を特定できます。逆に、ペアリングしているスキャナを特定するには、ベース・ステーション (クレードル) 上のメンブレン・スイッチ (リセットスイッチ) を約 3 秒間 (注記) これ以上長く押さないで下さい。ペアリングが解除されます) 押しますと対応スキャナからビープ音がでて場所が特定されます。



4.2 PICO モードによるブルートゥース通信手順：

① 電池が十分充電されていることを確認。インターフェースケーブルを選択し、ベース・ステーションをホスト機器に接続します。

防爆ベース・ステーションと防爆電源使用の際は相互にケーブルで接続、防爆電源と安全場所のホスト機器間もさらに通信ケーブルで接続します。別途、Bluetooth 無線本安防爆バーコードスキャナーと防爆電源の取扱説明書を参照ください。

② ホスト機器の電源を ON にします。

③ ベース・ステーションの状態表示が赤と緑色に交互に点滅することを確認 (アンインストール状態を示す) します。ベース・ステーションが他のバーコードスキャナーと pair (ペアリング) 済みの場合、paging/reset ボタン (ペイジング・リセット) を押しながら 5 秒以上保持します。これによりベース・ステーションは自動的にアンインストール状態に復帰します。

④ ベース・ステーションと pair (ペアリング) する複数のバーコードスキャナーを用意します。それぞれのバーコードスキャナーの状態表示灯が赤と緑色を交互に点滅 (アンインストール状態を示す) することを確認します。アンインストール状態でない場合、「uninstall (アンインストール)」命令 (command) をスキャンしてバーコードスキャナーの pair (ペアリング) 解除し、その後 PICO モード命令 (command) をスキャンします。すると状態表示灯は赤色に点灯します。[ページ 8](#) を参照してペアリングを完了します。

⑤ 該当するホスト機器インターフェースのクイックセット命令 (command) をスキャンしてインストールを完了します。同様の手順を他のバーコードスキャナー (最大 5 台) にも繰り返してください。

(注記 1) ベース・ステーション (通信・充電兼用) からシリアル信号 (RS232) を出力する場合、ページ 15 の HOST INTERFACE QUICK SET (ホストインターフェース・クイックセット) の RS232 Serial コードのスキャンが必要です。

(注記 2) また、シリアル (RS232) 信号のデータフレームの設定は追補 4 を参照して、ご希望のデータフレームに設定ください。

ピコモード設定手順について：

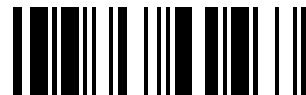
- ① ベース・ステーション（通信・充電兼用）のリセットボタンを5秒以上押し、LEDが点滅するの確認してリセットします。
- ② 複数台のバーコードスキャナーをFACTORY DEFAULT します。
- ③ その後、UNINSTALL → PICO MODE をスキャン
- ④ 英文 Operating Instructions/8028134/2023-03-06、ページ19の2.3とページ56の8.3.2を参照ください。
- ⑤ バーコードを読み取る前にページ6のSYSLIST (system information list) をスキャンして複数台のバーコードスキャナーハードウェア（MACアドレス情報等々）をメモ帳に読み取っておきます。
- ⑥ バーコードを読み取りますと pico モード設定時に自動的にバーコードスキャナーに割り当てられたの ID 番号が実際のバーコード値の先頭に付加されます。

MAC アドレスが実際のバーコード値の先頭に付加されます。

(記) ベース・ステーションは自動的にバーコードスキャナーに ID 番号を割り当てます。全てのバーコードスキャナーの pair (ペアリング) 完了後、それぞれのバーコードスキャナーの ID 番号のチェックには「System Information (システムインフォメーション) コードをスキャンしてください。



Uninstall



PICO Mode

4.3 HID モードによるブルートゥース通信手順

(コンピュータ (PC) との直接のペアリング)

- ① 電池が十分充電されていることを確認。通信範囲内にある Bluetooth 無線本安防爆バーコードスキャナーの電源を ON にし、状態表示灯が赤と緑色に交互に点滅 (uninstall(アンインストール) 状態を示す) ことを確認します。もし uninstall(アンインストール) 状態でなければ「uninstall(アンインストール)」命令を最初にスキャンします。さらに、次ページの「HID MODE」コードをスキャンします。

(注記) ホスト機器に最新の PC 等、ブルートゥース通信 V4.2 以降のドライバを搭載している場合以外、ホスト機器が BLE バージョンが V4.2 以前、例 V2.0 など搭載の iOS 又は Android 機器の場合には、確実簡単な pair (ペアリング) である「HID Legacy モード」を使用されることを推奨します。

必要であれば、セキュリティの高い「Passkey パスキーを持った HID モード」を使用することもできます。

上のバーコード命令 (command) の一つをスキャンしますとバーコードスキャナーの接続表示灯は検索中、2秒ごとに3回青色点滅します。

コンピュータなどホスト機器のブルートゥース機器の検察手順を実行し、Bluetooth 無線本安防爆バーコードスキャナーなどを確認し、PC スクリーン表示の該当の SICK 社型式 (IDMxxx) をクリック選択します。2次元スキャナは「IDM 2xxx」、1次元スキャナは「IDM 1xxx」と表示。

*次のページ参照。

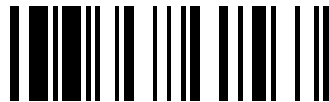
- ② 「HID モード」使用の場合、手順5に進んでください。
- ③ 「Passkey パスキーを持った HID モード」を選択した場合、ホスト機器側に Passkey パスキー (PIN) の入力を要求されます。ページ17の「option オプションコード」をスキャンして Passkey パスキーを入力します。そして「FIN(finish)」をスキャンして Passkey パスキー入力を終了します。次に手順5に進みます。

④ 「HID モード」又は「HID Legacy モード」を選択した場合、Passkey パスキー (PIN) 入力が必要されることがあります。その場合、"00000000" (デフォルト設定、ゼロを8つ) を入力ください。

"Keyboard on IDMxxx" と表示されます。ホスト機器とバーコードスキャナー間の接続を確立するためにこれをダブルクリックします。

⑤ 4つの上昇するビープ音がしますと pair (ペアリング) は完了です。同時に link(リンク) 表示が2.5秒に一回の青色点滅して通信の確立を知らせます。

上の命令 (command) コードをスキャンして1分以内にホスト機器とバーコードスキャナーが接続しなければ、バーコードスキャナーは自動的にスリープモードとなります。バーコードスキャナーをスリープから復帰させるにはバーコードスキャナーのトリガーを引いてください。



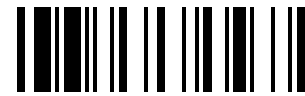
Uninstall



HID MODE



HID Legacy Mode



HID Mode with Passkey

◆ ブルートゥース機器追加検索でコンピュータ (PC) 画面上に検出された iSCAN 本安防爆バーコードリーダ。2次元タイプは IDM2XX-XXXX、1次元は IDM1XX-XXXX が表示されます。クリックします。

1) コンピュータ (PC) Bluetooth 検索画面



2) Bluetooth 機器を追加



3) コンピュータ (PC) Bluetooth 機器確認



4) コンピュータ (PC) Bluetooth 機器接続済み



4.4 SPP モードによるブルートゥース通信手順：

SPP マスタ - 接続確立：

- ① 電池が十分充電されていることを確認。ホスト機器（コンピュータなど）の "Bluetooth Advanced Setting" にある「Hardware (ハードウェア)」フォルダを開いてそのホスト機器の MAC アドレスを確認ください。ホスト機器の MAC アドレスの 12-character Code 128 バーコードを用意するか、または手順④に移動して 12 option コードをスキャンして MAC アドレスを入力します。
- ② バーコードスキャナーを接続するためにホスト機器にバーチャル COM ポートが提供されているか確認します。なければ、Bluetooth Advanced Setting にある "Local Services" フォルダを開いてください。"Add Serial Services" をクリックして BluetoothCOM ポートを追加します。
- ③ 通信範囲内にあるバーコードスキャナーの電源を ON し、バーコードスキャナーの状態表示灯が赤と緑色に交互に点滅 (uninstall(アンインストール) 状態を示す) するか確認します。uninstall(アンインストール) 状態になれば、以下の「uninstall(アンインストール) 命令 (command)」をスキャンし、さらに「SPP Master マスタモード命令 (command)」をスキャンします。バーコードスキャナーの状態表示灯が直ちに赤色に変化します。
- ④ 12-character MAC アドレスバーコード、または 15 オプションコードをスキャンします。そして「FIN」命令 (command) スキャンして入力を確認します。バーコードスキャナーは短いクリックを繰り返し、ブルートゥース通信接続が行われる間、バーコードスキャナーの link(リンク) 表示灯が青色に点滅します。PIN コードまたは Passkey パスキーを要求される場合、"00000000" (デフォルト設定を示す) を入力ください。
- ⑤ 4つの上昇するビーブ音がしますとブルートゥース通信接続は完了です。同時に link(リンク) 表示が 2.5 秒に一回の青色点滅して通信の確立を知らせます。

30 秒以内にホスト機器とバーコードスキャナーが接続しなければ、link(リンク) 表示灯は 2 秒に 3 回の青色点滅をします。バーコードスキャナーが自動的にスリープモードになる前に、バーコードスキャナーはさらに 30 秒間、ホスト機器の検索を続けます。途中、「uninstall(アンインストール) 命令 (command)」をスキャンしてバーコードスキャナーを uninstall(アンインストール) 状態に復帰できます。バーコードスキャナーが既にスリープモードになっている時はバーコードスキャナーのトリガーを引いて復帰させインストールを続行ください。(記) 上記手順は Windows 環境を前提にしています。異なるホスト機器、OS および Bluetooth ドライバにより多少手順は変わります。

SPP Slave スレーブ接続確立：

- ① 電池が十分充電されていることを確認。バーコードスキャナーを接続するためにホスト機器にバーチャル COM ポートが提供されているか確認します。なければ、Bluetooth Advanced Setting にある "Client Application" フォルダを開いてください。"Add COM Port" をクリックして BluetoothCOM ポートを追加します。
- ② 通信範囲内にあるバーコードスキャナーの電源を ON し、バーコードスキャナーの状態表示灯が赤と緑色に交互に点滅 (uninstall(アンインストール) 状態を示す) するか確認します。uninstall(アンインストール) 状態になれば、以下の「uninstall(アンインストール) 命令 (command)」をスキャンし、さらに「SPP Slave スレーブモード命令 (command)」をスキャンします。検索中はバーコードスキャナーの状態表示灯が 2 秒毎に 3 回青色点滅します。
- ③ ホスト機器から全てのブルートゥース機器を検索します。バーコードスキャナーが検索できれば、ブルートゥース機器リストに "IDM xxx" が表示されます。
- ④ "IDM xxx" をダブルクリックします。もし、Passkey パスキー (PIN) 入力が必要される場合、"00000000" (デフォルト設定を示す) を入力ください。"IDM xxx" のシリアルポートが標準時されます。この SPP サービスをダブルクリックしてバーコードスキャナーとホスト機器の接続を確立します。
- ⑤ 4つの上昇するビーブ音がしますとブルートゥース通信接続は完了です。同時に link(リンク) 表示が 2.5 秒毎に一回の青色点滅して通信の確立を知らせます。

“SPP slave スレーブモード” 命令 (command) をスキャンしてから 1 分以内にホスト機器とバーコードスキャナーが接続しなければ、バーコードスキャナーは自動的にスリープモードになります。バーコードスキャナーが既にスリープモードになっている時はバーコードスキャナーのトリガーを引いて復帰させインストールを続行ください。

(記) 上記手順は Windows 環境を前提にしています。異なるホスト機器、OS および Bluetooth ドライバにより多少手順は変わります。



Uninstall



SPP Master Mode



Uninstall



SPP Slave Mode

5. Out-of-range Scanning(通信範囲外でのスキャンング)について:

バーコードスキャナーとホスト機器間の通信が確立された場合、バーコードスキャナーからスキャンされたバーコードを出力します。但し、ホスト機器との通信接続できない場合、バーコードスキャナーは如何なるバーコードデータもスキャンできないように前もって設定されています。

Out-of-range Scanning(通信範囲外でのスキャンング)を有効にしますと通信範囲外環境下でもバーコードスキャナーでバーコードの読み取りを継続できます。通信が復帰するまで、スキャンした全てのデータはバーコードスキャナー内のメモリに一時的に保存されます。



バーコードスキャナーが通信範囲外になった場合、通信遮断を示す下降する4つのピーブ音が鳴ります。link(リンク)表示灯は2秒毎の3つの青色点滅をします。バーコードスキャナーの通信が復帰しますと、上昇する4つのピーブ音が鳴り、通信復帰を示します。その際、2.5秒毎に1つの青色点滅をします。同時に、保存されていた全てのバーコード・データが自動的に伝送されます。

6. Presentation Scanning(プレゼンテーション)について

Presentation Scanning についてはハンズフリーのアプリケーションのために用意されています。以下の "Presentation Scanning Enable Auto-sense" のコードを読み取り、機能を有効にしますと、別売 Presentation Stand(iSCANSTRI) にバーコードスキャナーを置きますと、直ちにバーコードスキャナーは自動的に "presentation" モードに切り替わります。

スキャナの下にバーコードをかざすと自動でコードを読みとります。



7 Sleep Mode & Power Off (スリープモードと電源 OFF) について:

バーコードスキャナーは "time-out" 時間を経過して使用しない場合、"Sleep Mode (スリープモード)" に入るように前もって設定されています。また、バーコードスキャナーが Sleep Mode (スリープモード) の時、"time-out" 時間経過後に復帰されなければ、自動的に "Power Off" 状態に入るように前もって設定されています。

直ちに Sleep Mode (スリープモード) または "Power Off" 状態を強制するには、Sleep Mode (スリープモード) または "Power Off" 命令 (command) をスキャンしてください。バーコードスキャナーのトリガーを押しますと復帰します。



スキャナー搭載のiSCANSTRI
スタンド



7.1 Radio-off Time-out, Sleep Time-out 及び Power Off Time-out について

Radio-off Time(通信 off 時間) のコントロールは通信中又は通信遮断中で設定できます。もし、本安防爆バーコードリーダが設定された時間内に使用されない場合、パワー (電力) 節約のため、自動的に Sleep Mode (スリープモード) に入ります。これを希望しない場合、Time-out(時間切れ) 時間を "0" に設定しますとこの機能を無効にできます。

7.2 Power-off Time-out コントロール :

本安防爆バーコードリーダが Sleep Mode (スリープモード) に設定されていますと、設定された時間内にスキャナーを起動しなければ、自動的に Power-off (パワーOFF) モードとなります。スキャナーを再度使用するには、スキャナーのトリガーを引かなくてはなりません。この機能を無効にするためには "time-out" 時間を "0" に設定します。

Radio-off Time-Out, Sleep Time-out, Power Off
Time-out



(記) オプションコードは数字です。ページ 16 参照。
また、Sleep Mode (スリープモード) 等と希望しない
場合、"0" に設定ください。パワー OFF モードも同様。

PROGRAM ファミリーコード		パラメータ選択	オプションコード
Family Code Selection	P.C.	Parameter Selection	Option Code
Radio-off Time-out of connected state 	SS	6 (x5) minutes ◆	FIN
	MS	0-99 (x5) minutes	(2 digits)
		スキャナがスリープモードなることを回避するには time-out を "0" に設定します。	
Radio-off Time-out of disconnected state 	SS	1 minute ◆	FIN
	MS	0-99 minutes	(2 digits)
		スキャナがスリープモードなることを回避するには time-out を "0" に設定します。	
Power Off Time-Out 	SS	6 (x5) minutes ◆	FIN
	MS	0-12 minutes	(2 digits)
		スキャナがpower off モードなることを回避するには time-out を "0" に設定します。	

(記) 表中の◆マーキングは工場出荷時のデフォルト設定です。

8. Batch Scanning (Inventory) バッチスキャンニング (在庫) モード：

Batch Scanning (Inventory) バッチスキャンニング (在庫) 機能を使用しますとバーコードスキャナーには EAN-13 バーコードのデータを最大 100,000 個のデータを保存できます。

この機能を有効にするには "Enter Batch Scanning) バッチスキャンニング (在庫) モード" 命令 (command) をスキャンします。スキャンされた全てのデータはメモリに保存されます。スキャン中、バーコードスキャナーの状態表示灯が一定間隔で緑色に点滅します。メモリ一杯になるまでバーコードデータを保存できます。一杯になりますと、2つの長いビープ音が鳴り、状態表示灯は2つの赤色点滅となり保存不可を警告します。Batch Scanning (Inventory) バッチスキャンニング (在庫) モードを終了するには "Exit Batch Scanning " 命令 (command) をスキャンしてください。



Enter Batch Scanning



Exit Batch Scanning

保存データの送信方法について：

"Transmit Stored Data" 命令 (command) をスキャンしますと保存された全てのデータが送信されます。送信中はバーコードスキャナーから連続した短いクリックがあり、また link(リンク) 表示灯は青色に点滅します。送信が終了しますとバーコードスキャナーから2つの短いビープ音が鳴ります。



Transmit Stored Data

また、ベース・ステーションにバーコードスキャナーを置きながら保存データを送信するようにも設定できます。



Transmit Stored Data by Scanning Barcode Command ◆

* Cradle(クレードル) とはベース・ステーション(通信・充電兼用)の意味です。



Transmit Stored Data by Placing Scanner onto Cradle



Transmit Stored Data by Scanning Barcode or Placing Scanner onto Cradle

間違ったバーコードをスキャンした場合、"Delete Last Scanned Data" (最後のスキャンデータ削除) 命令 (command) により間違いから復帰できます。"Delete Last Scanned Data" 命令 (command) をスキャンしますと最後の保存データを削除できます。



Delete Last Scanned Data

(記) quantity feature(数量特長) と出力フォーマットの変更を使用する場合、別添の詳細な sick 英文 Operating Instructions/8028134/2023-03-06 を参照ください。 www.mysick.com 又は <http://calxtechnology.com/> からダウンロード

9. Link Mode Quick Set (リンクモード・クイック・セット)



PAIR Mode



UNINSTALL



PICO Mode



SPP Master Mode



SPP Slave Mode



HID Legacy Mode



HID Mode



HID Mode with Passkey

10. Host Interface Quik Set (ホスト・インターフェース・クイックセット)

(通信対応ベース・ステーションのみ使用)


 USB HID
Standard Mode ◆


RS232 Serial


 PS/2 (DOS/V) KBW
Standard Mode


USB HID Turbo Mode


 PS/2 (DOS/V)
Keyboard Replacement

 PS/2 (DOS/V) KBW Turbo
Mode


USB Com Port Emulation

11. Keyboard Layout Quick Set (キーボード配列クイックセット)



USA ◆



Latin America



France



United Kingdom-UK



Netherlands



Germany



Canadian French



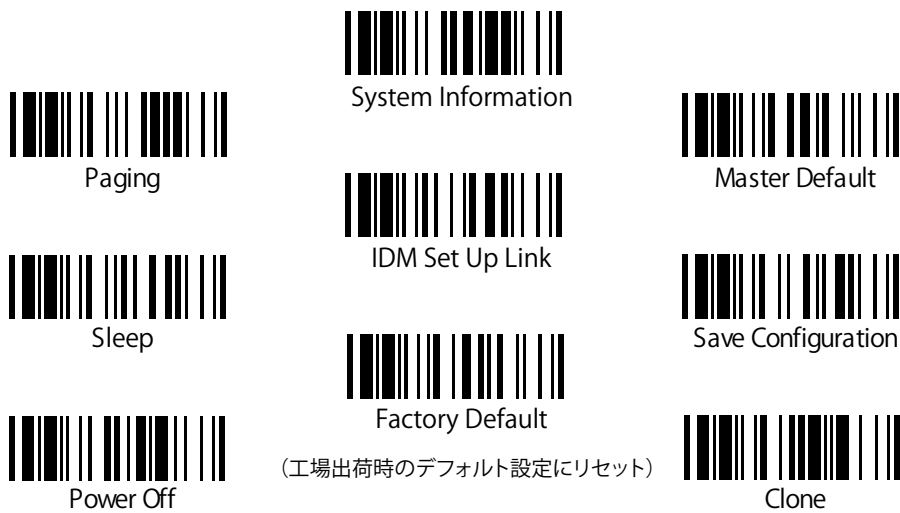
Japan



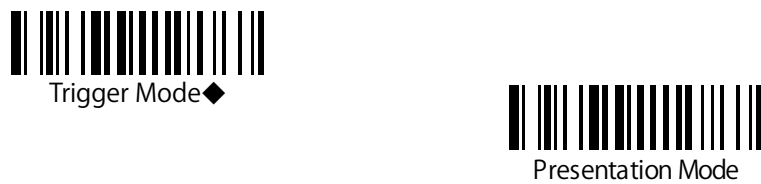
Spain

(記) 上記コードの◆マーキングは工場出荷時のデフォルト設定です。

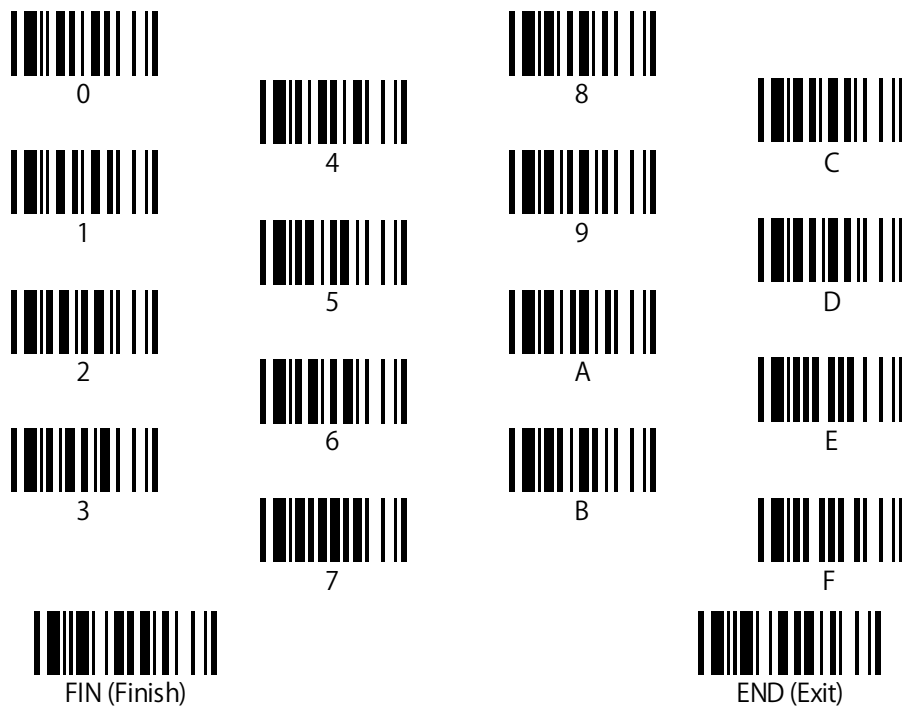
12. System Commands (システム命令)



13. Operation Mode Quick Set (操作モードクイックセット)



14. Option Codes (オプションコード)



(記) 上記コードの◆マーキングは工場出荷時のデフォルト設定です。

15. 表示について：

バーコードスキャナーのランプ表示について

説明	link(リンク) 表示	ビープ音
無線接続	2.5 秒毎に 1 回青色点滅	OFF
無線切断	2 秒毎に 3 回青色点滅	OFF
接続中	短い青色点滅	短いクリック音
無線接続確立	2.5 秒毎に 1 回青色点滅	上昇する 4 つのビープ音
無線接続失敗	2 秒毎に 3 回青色点滅	下降する 4 つのビープ音
データ伝送	短い青色点滅	短いクリック音
説明	状態表示	ビープ音
ベース・ステーション充電中	赤色点灯	OFF
ベース・ステーション充電完了	緑色点灯	OFF
① ISCANX4B: (2 次元バーコードスキャナー) の場合	<ul style="list-style-type: none"> ● 完全充電されますと緑色点灯しますが、暫くして赤色となります。その場合、ベース・ステーション (充電器) から一旦外して、置き直しますと緑色となりますので、それで完全充電を確認ください。 ● または、充電レベルを以下の Battery status(バッテリー電圧レベル) のバーコードをスキャンして確認ください。 	
② ISCANX4B:(1 次元バーコードスキャナー) の場合	完全充電されますと緑色ランプが点灯します。	
Batch Scanning バッチスキャン中	2.5 秒毎に 1 回緑色点滅	OFF
ペアリング失敗	赤色点灯	2 つの "Di-do Di-do" ビープ音
メモリ不足	2 つの赤色点滅	2 つの長いビープ音
電池電圧低下	定期的に 1 回の赤色点滅	定期的に 1 つのビープ音
電池電圧かなり低下	8 回の赤色点滅	8 回のビープ音
読取良好	1 回の緑色点滅	1 回の良好読み取りビープ音
コンフィギュレーション (設定) 中	赤色点灯	OFF
uninstall(アンインストール) 状態 ^(記1)	赤と緑色、交互に点滅	OFF
アップグレード中	赤色点灯	短いクリック音
時間切れ警告	OFF	3 つの長いビープ音
ベース・ステーションによるペイジング	OFF	6 つのページビープ音
Sleep Mode (スリープモード) 状態	OFF	OFF
電源 OFF	OFF	OFF

(記1) uninstall(アンインストール) 状態の意味ですが、例えば、危険場所用又は安全場所用のベース・ステーション (通信・充電兼用) と本安防爆形無線バーコードスキャナーをペアリング (pairing) モードで使用している際、ベース・ステーション (通信・充電兼用) とのペアリングが切れた場合、uninstall(アンインストール) 状態となり、バーコードスキャナーのヘッド部のランプが赤と緑色に交互に点滅する状態となります。

一方、ベース・ステーション (通信・充電兼用) の上面の power ランプが OFF、status ランプが点滅状態となります。この場合、該当本安防爆形無線バーコードスキャナーで uninstall(アンインストール) コードをスキャン、そして PAIR Mode(ペアリングモード) のバーコードをスキャンし、約 20 秒以内にベース・ステーション (通信・充電兼用) にスキャナーを置いてください。クリック音が鳴り、ペアリングが確立されるとスキャナーランプの赤と緑の点滅が止まり、ベース・ステーション (通信・充電兼用) の power ランプが青色に変わります。

4.1 を参照ください。

ベース・ステーション（通信と充電兼用）の表示について



説明	表示		ビープ音	
	電源 Power	状態 Status		
電源 ON	1 回の青色点滅	OFF	電源 ON ビープ音	
ベース・ステーションのアップグレード中	OFF	赤色点灯	短いクリック音	
uninstall(アンインストール) 状態	OFF	赤・緑色交互に点滅	OFF	
PICO MODE	無線接続	青色点灯	緑色点灯	OFF
	無線接続失敗	OFF	赤色点灯	OFF
PAIR MODE	無線接続	青色点灯	OFF	OFF
	無線接続失敗	OFF	赤色点灯	OFF
ベース・ステーション、 ペイジング（呼び出し）	PICO MODE	青色点灯	緑色点灯	6つのペイジング音
	PAIR MODE	青色点灯	OFF	6つのペイジング音

(記) pair (ペアリング) モードを開始時、ベース・ステーションは status (状態) ランプは uninstall 状態でなければなりません。点滅してなければ、ベース・ステーションのリセットが必要です。右横のリセットボタンを 5 秒以上押し続けて点滅させてください。その後、pair (ペアリング) 手順を実施ください。

* ベース・ステーション（充電専用）の表示について

(記) その他の詳細コンフィギュレーション (設定) は別紙の「sick 社 (extronics Ltd.)」取扱説明書参照ください。

説明	電源表示	ビープ音
電源 ON	青色点灯	OFF

16. スキャナのバッテリーレベル（残量）の確認とバッテリーの保管について

（型式の名称：ISCANX4B-1-P/Q の場合）

■ ISCANX4B-1-P（1次元用）とISCANX4B-1-Q（1・2次元用）の充電時間とバッテリースキャナ回数の関係を以下に示します。

1. ISCANX4B-1-P スキャナを満充電しますと約 40,000 回のスキャンを実行できます。

ISCANX4B-1-P は“low battery”状態（バッテリー低下）から 12 時間充電しますと	約 25,000 回スキャンが可能です。
ISCANX4B-1-P は“low battery”状態（バッテリー低下）から 1 時間充電しますと	約 1,000 回のスキャンが可能です。

2. ISCANX4B-1-Q スキャナを満充電しますと約 10,000 回のスキャンを実行できます。

ISCANX4B-1-Q はバッテリー低下状態から 12 時間充電しますと	約 6,000 回スキャンが可能です。
---------------------------------------	---------------------

■ スキャンの以下のバッテリー低下状態の発生・警告が通知されましたら、直ちにバッテリーをベース・ステーション（クレードル）（iSCANX4B-1-CS、iSCANX4B-1-BS 又は iSCANX4B-1-EXBS）にスキャナを置いて充電ください。

● スキャナからバッテリー低下の警報音が鳴りましたら、充電してください。

○ 10 秒ごとに 1 回のピープ音：	“low battery”状態（バッテリー低下）
○ ブルートゥース通信切断が発生：	“low battery”状態（バッテリー低下）
○ 8 つのピープ音出力：	“Extremely low battery”状態（極端なバッテリー低下状態）

■ スキャナのバッテリーの使用と保管について

- バッテリーの未使用時、電源を入れたベース・ステーション（クレードル）、即ち iSCANX4B-1-EXBS、iSCANX4B-1-BS、iSCANX4B-1-CS）に置いて充電ください。
- 正しくベース・ステーション（クレードル）に置きますと緑色と赤色の LED が点灯し充電中を示します。
- スキャナを長期間使用せず、ベース・ステーション（クレードル）に置くことができない場合、スキャナからバッテリーを抜き取り、バッテリー放電を防止してください。極端な放電は問題です。
- バッテリー低下の警告あれば、ベース・ステーション（クレードル）に置いて充電ください。
- 極端なバッテリー低下警告表示があり、直ちに充電できない場合、バッテリーはディープ放電保護のためにスイッチ OFF されます。この場合、バッテリーはベース・ステーション（クレードル）を使用しての再生が出来なくなります。Extronics Limited（英国）社又は販売店にご連絡ください。
- 予備バッテリー（Zone 1 用 iSCANX4B-1-BATT）を使用する場合、使用前にベース・ステーション（クレードル）、iSCANX4B-1-EXBS の場合は最低 12 時間充電して下さい。
安全場所用ベース・ステーション（クレードル）、iSCANX4B-1-BS 又は iSCANX4B-1-CS 使用する場合、最低 4 時間充電後に使用ください。

■ バッテリー電圧レベル測定：スキャナの底部のネジを緩めてバッテリー収納容器からバッテリーを取り出し、テスターにて電圧を測定することで残量レベル確認が出来ます。

満充電電圧で約 4.2VDC です。約 3.6V 以下になるとスキャナが動作しなくなります。



警告！

（警告！）バッテリーの取り出しは絶対に危険場所で実施してはなりません。禁止されており、爆発危険があります。取り出して電圧測定するには安全場所で行ってください。

（記）本安防爆バーコードスキャナー、iSCANX4B-P/Q は SICK 社バーコードスキャナーを本質安全防爆設計された製品です。本質安全防爆設計ルールを適合するために、一部の電気回路と絶縁など変更しています。そのため、安全場所使用の SICK 社標準品と異なる製品となっています。そのために、SICK 社マニュアル記載のスキャナのバッテリー残量 LED 表示は指標とならなくなりました。ご了承ください。

17 バーコードを使用したコンフィギュレーション（設定）手順

17.1 プログラム命令

防爆Bluetooth無線バーコードスキャナーでは、専用のバーコードラベルを使用して防爆Bluetooth無線バーコードスキャナー内のプログラミングパラメータの設定ができます。これらはプログラミングに必要な SYSTEM COMMAND（システム命令）、FAMILY CODE（ファミリーコード）および OPTION CODE（オプションコード）です。それぞれのプログラミングファミリとバーコード命令ラベルは主なシステム命令のページにリストアップされています。

17.2 SYSTEM COMMAND（システム命令）：

SYSTEM COMMAND（システム命令）はバーコードスキャナーに直ちに実行させる最優先のバーコード命令です。例えば、プログラミングモードに入る（PROGRAM）、プログラミングモードから出る（EXIT）、システム情報のリストアップ（SYSLIST）、工場出荷時のデフォルト設定（M_DEFAULT）に復帰などです。命令終了には数秒かかりますので、終了のピープ音が鳴るまで待ってください。

17.3 FAMILY CODE（ファミリーコード）：

ユーザーが希望されるプログラミングファミリの FAMILY CODE（ファミリーコード）をスキャンして選択します。IDM バーコードスキャナーでは如何なる特別な要求にも対応できる 100 以上のプログラミング FAMILY CODE（ファミリーコード）を提供しています。

17.4 OPTION CODE（オプションコード）：

OPTION CODE（オプションコード）とは "0-9"、"A-F" および終了選択（FIN）で表現される一連のバーコード命令です。大半の設定では、選択したプログラミング FAMILY（ファミリ）の設定に必要なパラメータとして最低一つの OPTION CODE（オプションコード）の選択が必要です。OPTION CODE（オプションコード）については別ページを参照してください。

*詳細なプログラミングは英文 Technical Information IDM Programming Manual idmxxx 4xx mobile handheld scanner を参照ください。

18 プログラミング手順

必要なパラメータ選択にバーコード命令をスキャンしますと最後に選択されたバーコード命令がバーコードスキャナーの内部フラッシュメモリ ASIC または不揮発性メモリに保存されます。バーコードスキャナーの電源を OFF にしても全てのプログラミングされたパラメータは保持されます。現在のパラメータで良ければ、電源を ON して使用開始しても、再度プログラミングは不要です。

プログラミング手順は簡単です。大半のプログラミングファミリは "Single Scan Selection" プログラミング手順を採用しています。

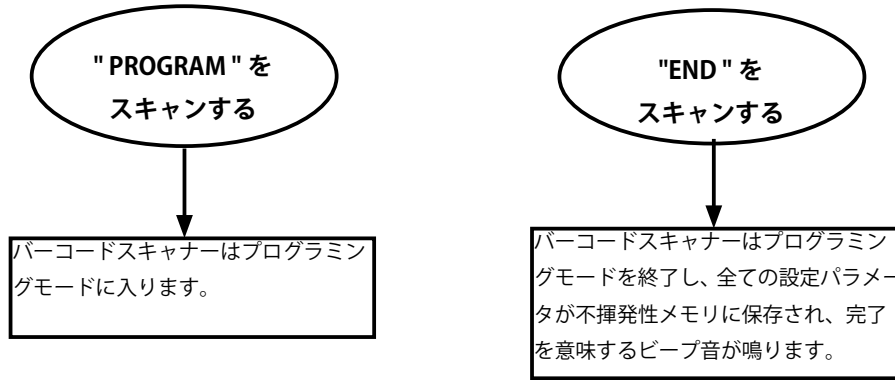
ただし、いくつかのプログラミング FAMILY（ファミリ）は少し複雑、且つ柔軟なプログラミングオプションを採用しています。"Single Scan Selection"、"Multiple Scan Selection"、"Cycling Scan Selection" または "Dual Level Selection" を採用してプログラミング手順を終了

ください。それぞれのプログラミング手順については以下のページを参照ください。"Multiple Scan Selection"、"Cycling Scan Selection" または "Dual Level Selection" が必要な場合、該当するプログラミングメニューは右表のプログラミングカテゴリ（P.C.）内の記号を付加しています。

（記）説明書のスキャン設定用のコード表には SS（シングルスキャン）；MS（マルチプルスキャン）；CS（サイクリックスキャン）及び DS（デュアルスキャン）の記号が付されています。それにより、プログラミング手順を確認ください。

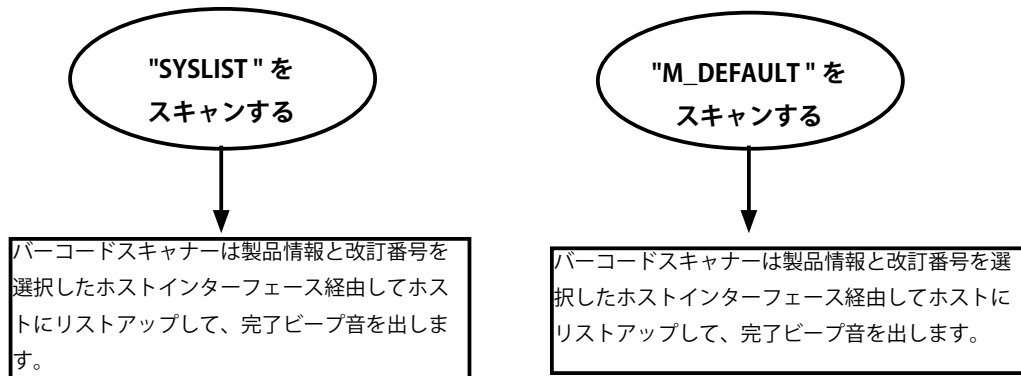
記号	説明
◆	工場出荷時のデフォルト設定
P.C.	プログラミングの種類
	SS: シングルスキャン選択
	MS: マルチプルスキャン選択
	CS: サイクリック（繰り返し）スキャン選択
	DS: 2段階スキャン選択
()	必要なオプションコード
[]	選択するオプションコード

18.1 Program & End (プログラミングと終了) 手順

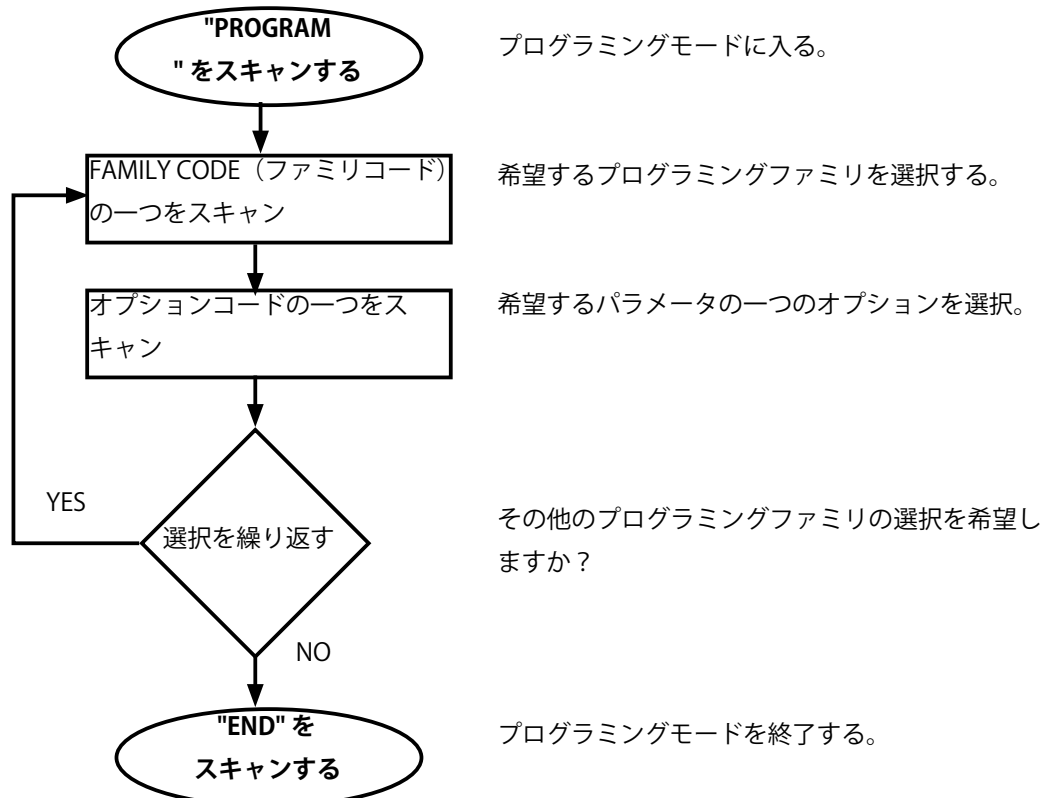


(注記) バーコードスキャナーは "END" をスキャンしてから内部の不揮発性メモリに保存するには 3 - 4 秒時間がかかります。ビープ音が鳴り完了するまで電源を OFF にしてはなりません

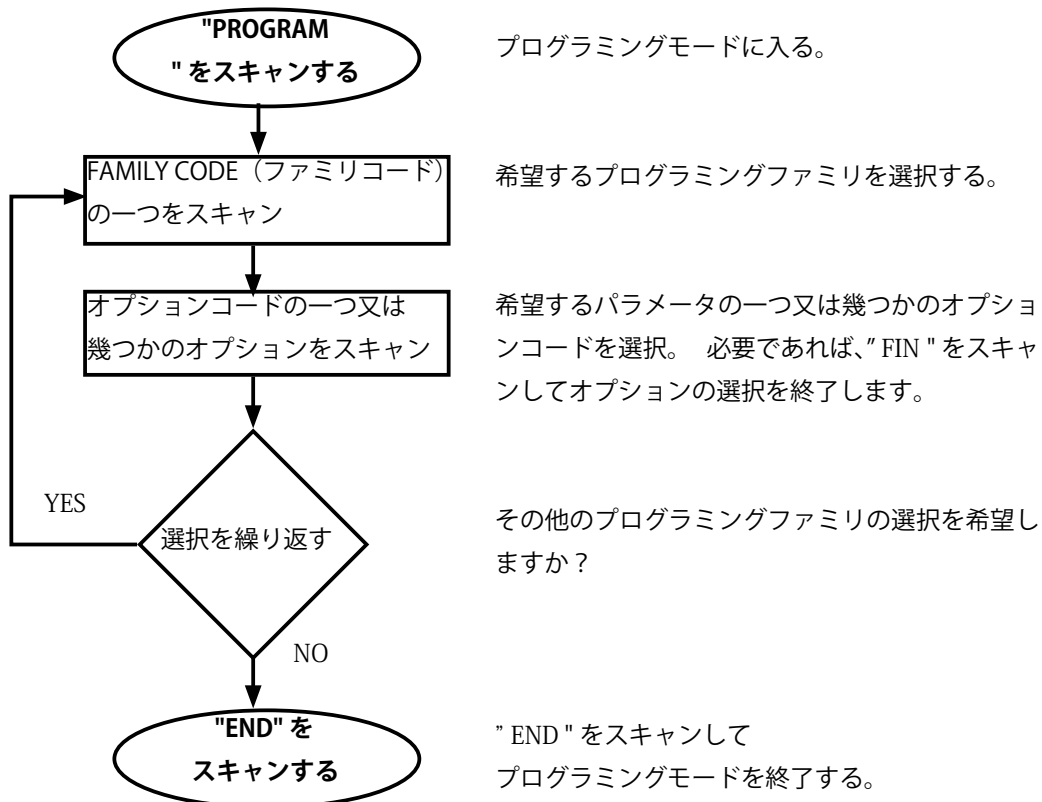
18.2 SYSTEM LIST & MASTER DEFAULT(マスタ・デフォルト)



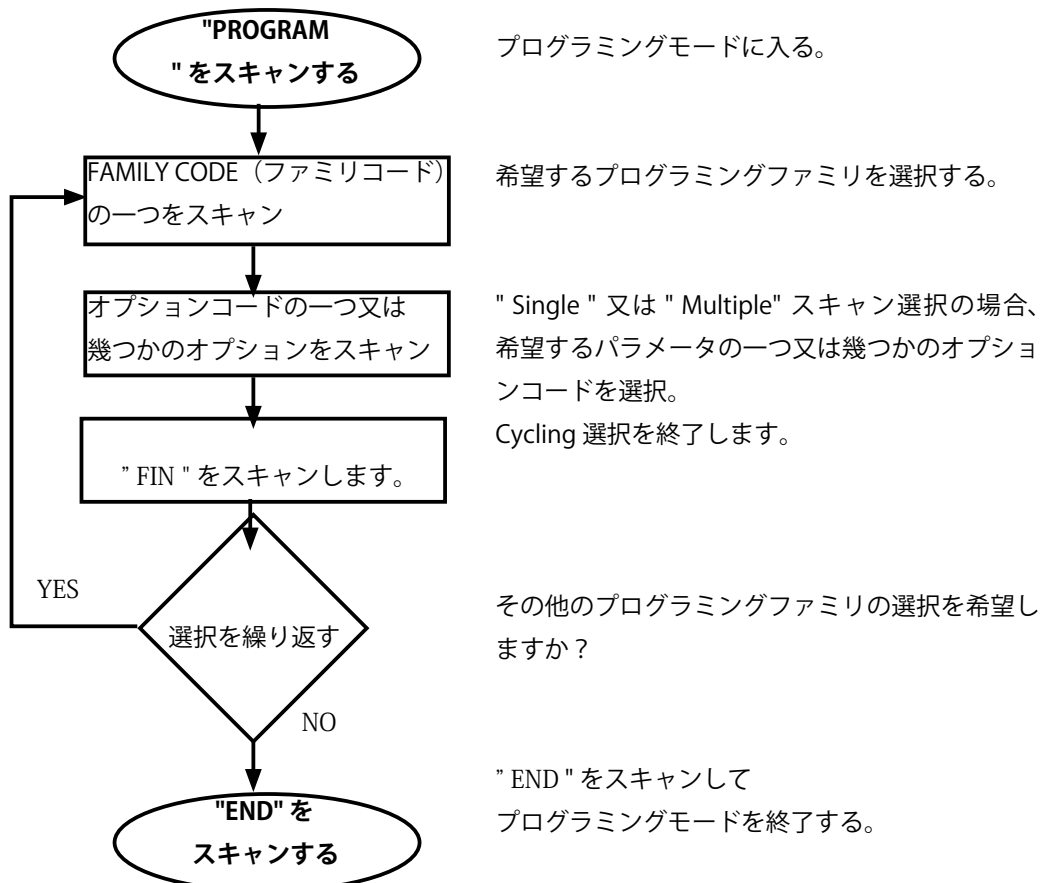
18.3 Single Scan (SS 記号の場合: シングルスキャン選択)



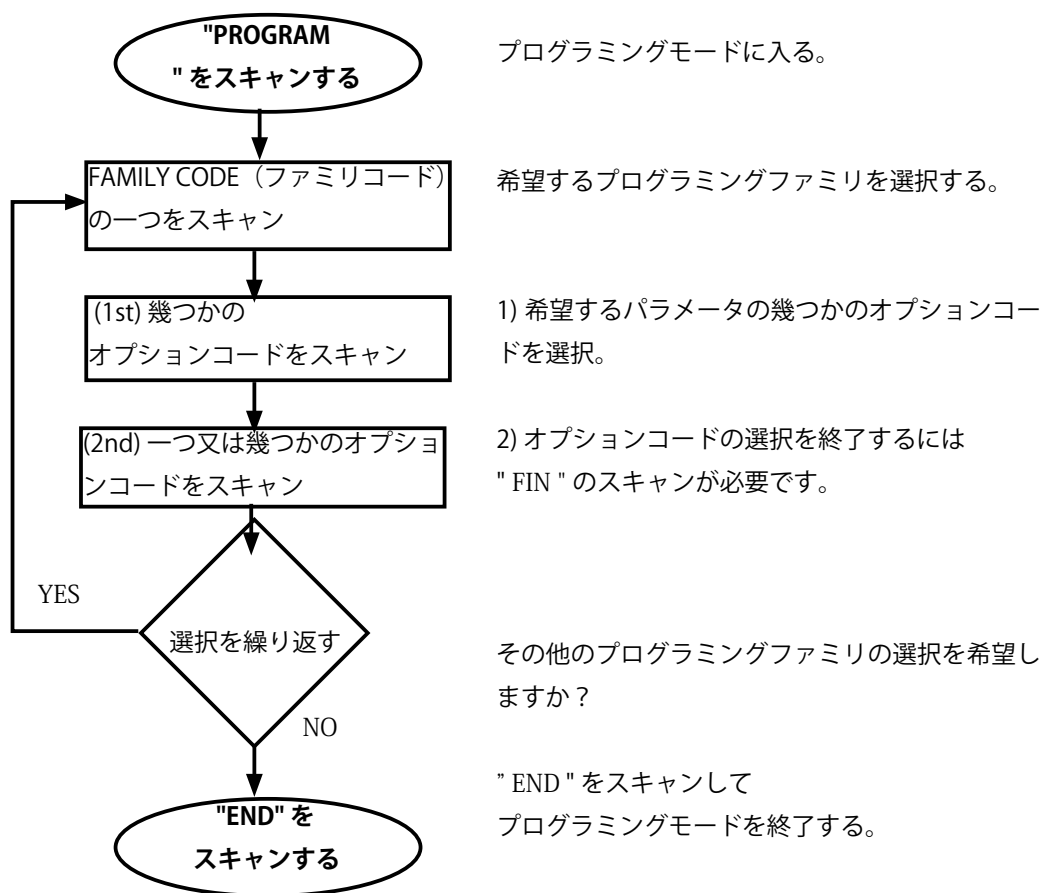
18.4 Multiple Scan (MS 記号の場合: マルチブスキャン選択)



18.5 Cycling Scan (CS 記号の場合: サイクリック (繰り返し) スキャン選択)



18.6 Dual level Scan (DS 記号の場合：2段階スキャン選択)



追補 1 : Bluetooth 本安防爆バーコードスキャナーの危険場所からの RS232 通信設定手順

バーコードスキャナで取扱説明書（和文又は英文）のバーコードを読んで設定します。

1. [uninstall] のバーコードをスキャン ➡ [pair mode] バーコードをスキャン
2. そのバーコードスキャナをベース・ステーションに置きますとペアリングが行われ完了します。
3. 次に sick 社の英文 Operating Instructions/8028134/2023-03-06 のページ 51、又はこのクイックスタートガイドの Host Interface Quick Set から [RS-232 serial] のバーコードをスキャンします。工場出荷時のデフォルト設定値は [USB HID Standard Mode] になっていますので、変更が必要です。
4. 次に、**Moxa 社の Uport1100 (RS232/USB 変換ユニット) 又は他社の同等品と USB ドライバーをメーカー**のホームページからダウンロードしてコンピュータ（PC）に搭載します。
5. 防爆電源ユニット (ISCANPSx) の安全場所側端子（安全増防爆配線部）台の記号 X4 と X5 の RS232 信号線、2 芯を Moxa 社 Uport1100 付属の端子の pin 番号 1 と 5 に接続します。

防爆電源ユニット (ISCANPSx) の端子から安全場所側の DB9 ピンの配線		
使用される対応 DB9 ピン番号	2 (RxD)	5 (GND)
MOXA 付属端子台番号	1	5
防爆電源ユニット、ISCANPSx の端子番号	X5 (TxD)	X4 (GND)

6. その後、Uport1100 の USB 側をコンピュータ（PC）の USB ポートに接続します。
7. RS232 のコンピュータ（PC）による通信テストであれば、簡易ソフトウェア、**TeraTerm のソフトウェア**が使用できます。インストール後、TeraTerm を立ち上げ、現れて画面から「シリアル」をチェックします。
8. com ポートとして自動認識された Uport1100 の製品名と com 番号が現れます。表示されなければ、デバイスマネージャーのポート (com と LPT) をクリックして認識されている moxa の USB 変換器の COM ポート番号を確認して TeraTerm のシリアルとして選択します。
9. TeraTerm の設定から「端末」をクリック、表示された画面の改行コードの受信の設定を [CR + LF] を選択し、OK して閉じます。
10. ベース・ステーションから取り外した本安防爆バーコードリーダを使用して対象バーコードをスキャンしますと TeraTerm 画面にバーコード明細が表示されます。

追補 2 : CAB1 ケーブル使用した非危険場所における RS232 通信テストについて


 ISCAN2xxCAB1 と
RS232/USB 変換器

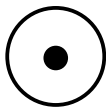
 ISCAN2xxCAB1 電源
プラグコネクタに
ISCAN2xxBLP (電源 AC
専用アダプタ) が必要

 ISCAN2xxBLP
電源 AC 専用アダプタ

ISCAN2xxCAB1 ケーブル (RS232 用) 使用してベース・ステーション (ISCANX4B-1-EXB3: 通信対応) と Pair (ペアリング) するには CAB1 ケーブルに ISCAN2xxBLP、専用 AC アダプターの接続が必要です。



(注記) この接続は安全場所における通信テスト以外の目的で使用してなりません。危険場所においては危険場所用ベース・ステーション (通信・充電兼用) ISCANX4B は防爆電源ユニット経由でのみ RS232 ペアリングと通信をしなければなりません。



CAB1 ケーブルの RS232 横の電源 PIN を示す。

Centre Pin = Pin 1 on RJ45 - Black +5VDC

Outer Pin = Pin 4 on RJ45 - Brown 0V dc

Pin 5

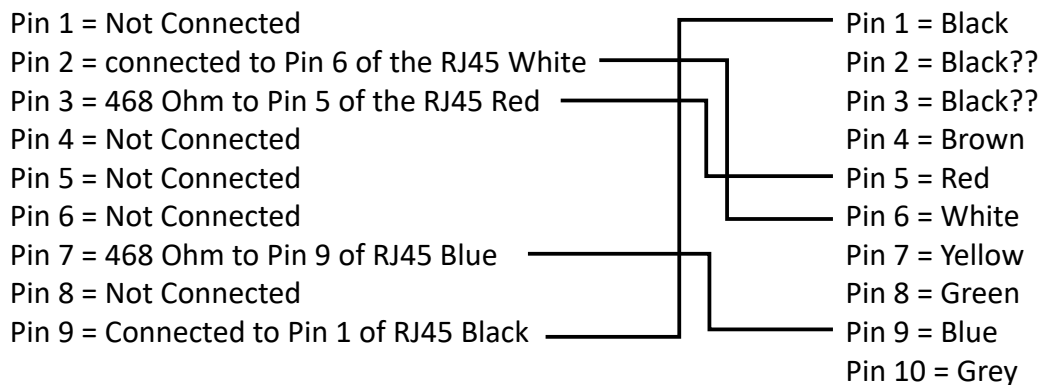
Pin 1



Pin 9

Pin 6

ISCAN2xxCAB1 ケーブルの RS232 と RJ45 (10-PIN) のピン配列の関係



RS232 コネクタ側

RJ45 プラグ側

追補3 ISCANX4Bxxxx による漢字 QR コードの読み取り手順の1例

以下の流れでバーコードをスキャンして設定します。

1. バーコードを初めて使用開始の場合、クイックスタートガイド又は sick 社英文 Operating Instructions idm bluetooth idmxx 1_4xx の "Factory Default" デフォルト設定を本安防爆バーコードリーダーでスキャンします。
2. ベース・ステーション（通信・充電兼用）とコンピュータ間を USB ケーブル CAB3 を使用して接続します。
3. pair（ペアリング）モード設定：
USB によりベース・ステーション（通信・充電兼用）とコンピュータを接続した際にベース・ステーションの Status LED が点滅していない場合、右のメンブレンスイッチ（リセットスイッチ）を長押しして Status LED が点滅するまで待ちます。
次にクイックスタートガイドの 4.1) 記載の PAIR モードの設定に入ります。ページ 6 の "Uninstall" をスキャン、次に ベース・ステーション（クレードル）上端のコードをスキャンしますと音が鳴り、ペアリングが完了します。
その際、ベース・ステーションの Power LED が青色点灯します。失敗の場合、再度同じ動作を行ってください。
4. 次にクイックスタートガイドのページ 16 の Host Interface Quick Set の USB Com Port Emulation をスキャンします。

* USB Com Port Emulation に必要な Sick 社の USB Com Port driver(zip バージョン) を以下の sick 社サイトからダウンロードします。それをコンピュータにインストールします。

<https://www.sick.com/jp/ja/search?text=USB%20Com%20Port%20driver>

* RS232 ケーブル使用しての通信の場合は Host Interface Quick Set の " RS232 Serial " のコードをスキャン、又は CAB1/ CAB2 ケーブルを使用してください。

次にシリアルデータ表示ソフトウェア、TeraTerm（無償）をインストール後、立ち上げます。
ダウンロードサイトの一つは：

[「Tera Term」 定番のターミナルエミュレーター - 窓の杜 \(impress.co.jp\)](http://impress.co.jp)

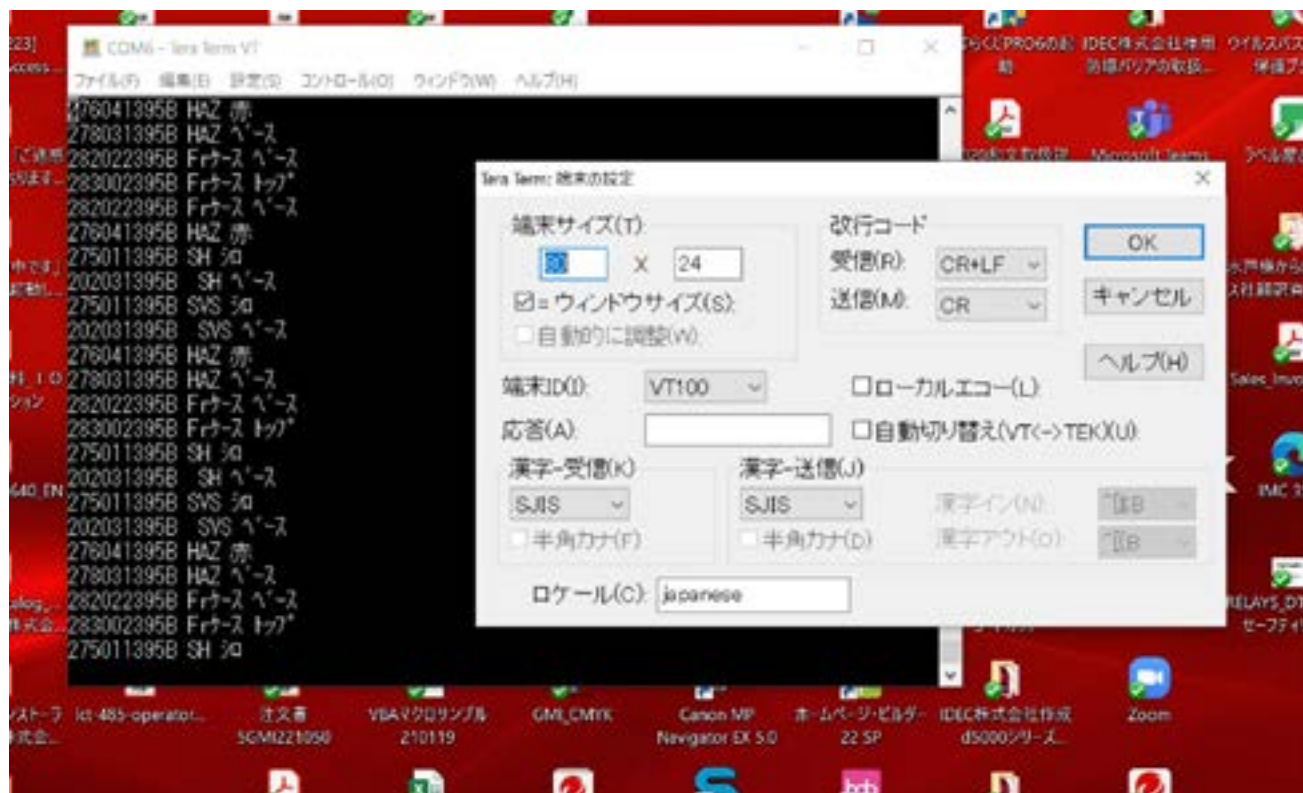
TeraTerm 画面のシリアルを選択し、その中の“USB シリアル デバイス”を選択します。

次に TeraTerm の端末設定画面を出し、漢字受信と漢字送信の設定を

“SJIS” に設定、改行コードを受信と送信とも“CR+LF” に設定します。

漢字のQRコードを読みますとベース・ステーション経由のシリアルデータが TeraTerm 画面に改行されながら漢字も含めてバーコード

データが表示されます。以下の通りです。



追補4 RS232 シリアル、データフレーム等々の設定

* RS232 ケーブル使用しての通信の場合は Host Interface Quick Set の " RS232 Serial " のコードをスキャン、又は CAB1/ CAB2 ケーブルを使用してください。

SERIAL INTERFACE CONTROL シリアルインターフェースコントロール

- Suffix, Preamble, Postamble



PROGRAM



F_DEFAULT

Family Code Selection	P.C.	Parameter Selection	Option Code
STX/ ETX Control 	SS	Disable STX/ETX transmission ◆	0
	SS	Enable STX/ETX transmission	1
		STX/ETX are two characters used to indicate the starting and ending of the total data frame transmitted via serial interface.	
Record Suffix 	SS	None	0
	SS	CR (0DH) ◆	1
	SS	LF (0AH)	2
	SS	CRLF (0D0AH)	3
	SS	TAB (09H)	4
	SS	SPACE (20H)	5
Preamble 	SS	None ◆	FIN
	MS	1-15 characters	[00-7F], FIN
		Maximum 15-character input; scan "FIN" to terminate this selection.	
Postamble 	SS	None ◆	FIN
	MS	1-15 characters	[00-7F], FIN
		Maximum 15-character input; scan "FIN" to terminate this selection.	
FNC1 Symbol Char. Transmit 	SS	Disable	0
	SS	Enable ◆	1
		When this function is enabled and the FNC1 is contained in scanned data, the scanner transmits the FNC1 to the host. A chart of the FNC1 is provided in the GS1-128 ASCII Table. When the scanner interface is set to keyboard, the scanned code is converted to corresponding key function before it is transmitted.	

Serial Interface Message String (RS-232, USB COM) シリアルインターフェースメッセージのストリング

STX	Preamble	Data Length	Prefix Symbol ID	Scanned Data	Suffix Symbol ID	Postamble	ETX	Record Suffix
1 character	1-15 characters	2-4 digits	1 or 3 characters	Variable length	1 or 3 characters	1-15 characters	1 character	1 character



Response Time-out, Baud Rate(ボーレート) の設定



PROGRAM



F_DEFAULT

Family Code Selection	P.C.	Parameter Selection	パラメータ選択	オプションコード Option Code
Serial Response Time-out  応答 (Response) タイムアウト	SS	None		0
	SS	200 mseconds		1
	SS	500 mseconds ◆		2
	SS	800 mseconds		3
	SS	1 second		4
	SS	2 seconds		5
	SS	3 seconds		6
	SS	4 seconds		7
	SS	5 seconds		8
	SS	8 seconds		9
	SS	10 seconds		A
	SS	15 seconds		B
Baud Rate (BPS)  ボーレート BPS	SS	38.4K BPS		0
	SS	19.2K BPS		1
	SS	9600 BPS ◆		2
	SS	4800 BPS		3
	SS	2400 BPS		4
	SS	1200 BPS		5
	SS	57.6K BPS		8
	SS	115.2K BPS		9

Data Frame データフレームの設定



PROGRAM



F_DEFAULT

Family Code Selection	P.C.	Parameter Selection	Option Code
Data Frame 	SS	8, None, 1 ◆	0
	SS	8, Odd, 1	1
	SS	8, Even, 1	2
	SS	8, None, 2	5
	SS	7, Odd, 1	6
	SS	7, Even, 1	7
	SS	7, Space, 1	8
	SS	7, Mark, 1	9
	SS	7, None, 2	A
	SS	7, Odd, 2	B
	SS	7, Even, 2	C
	SS	7, Space, 2	D
	SS	7, Mark, 2	E

CALEX テクノロジー株式会社
〒 231-0002 神奈川県横浜市中区海岸 4-23、
マリンビル 6 階
TEL 045-228-9447/fax045-228-8466
<https://calextechnology.com/>

